

ナイスファイト!

車椅子バスケット

特集:来て、観て、感動! みんな一緒に楽しもう

自由自在な チェアワーク!

全力疾走したかと思えば、クルクルまわってピタリと止まる。フェイントを仕掛けながら、敵のディフェンス陣を抜き去るシーンは痛快そのもの。



車椅子バスケットの ココが見どころ!

ファンの間では「コート上の格闘技」とも呼ばれている車椅子バスケット。単純に「車椅子で行うバスケットボール」と思うことなかれ。予想を上回る奥深い面白さに、夢中になること間違い無し。いざ生観戦の前に、見どころをチェックしておきましょう。

的確なパスワーク&美しシュート

お互いの状態をしっかり把握し、それに応じて繰り出す的確なパスは練習の賜物。車椅子の高さから大きく放物線を描くシュートはまさに芸術です!



迫力満点のコンタクトプレイ!

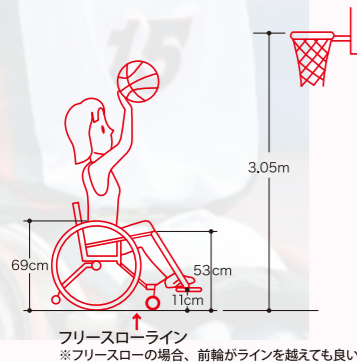
車椅子ごと突進するので、激しいぶつかり合いもしばしば。ガンガンという金属音と共に火の粉が舞うことも…。文字通り火花を散らす熱い戦いです。

寒風吹きすさぶこの季節、ますます熱く盛り上がっているのが屋内スポーツ。なかでも今、注目を集めているのが、2月中旬に国際親善大会(女子)を控えた「車椅子バスケットボール(以下、車椅子バスケットと略)」です。一人ひとりが個性を活かし、繰り出されるテクニクは見応え十分。車椅子に乗ることで、誰もが一緒に楽しめる競技としても注目を集めています。

車椅子バスケット：ルール解説

車椅子に乗ってプレイする以外、**一般のバスケットボールとほとんど同じです。**

選手数やコート大きさ、ゴールやボールなどの用具、競技時間まで、一般のバスケットボールと同じです。一般のバスケットボールと異なるのは、ダブルドリブルは適用されず、一度止まった後もドリブルできることくらいです。またゲームで使う車椅子は規格が定められています。車椅子バスケットの選手には障害レベルの重い者の順から1.0~4.5の持ち点が定められており、試合中はコート上の5人の持ち点が合計14.0を超えてはなりません。このクラス分けは、障害の重い選手も軽い選手も、等しく試合に出場するチャンスを与えるためです。



車椅子バスケットのルーツ、そして今。

車椅子バスケットは1945年頃からアメリカの退役軍人病院において始められ、また同じ頃、イギリスにおいてはリハビリに採り入れられたとされています。この二つの流れが一つになり、車椅子バスケットとして世界各国へ。1960年にローマで開催された第1回パラリンピックから公式競技となり、現在では82の国や地域が国際車椅子バスケットボール連盟(IWBF)に加盟しています。近年では障害のある人もない人も車椅子に乗ることで一緒に楽しめる競技としても発展。体験教室も盛んに開かれています。